



令和2年度
 文部科学大臣 **表彰**
 たまき たつお
玉城 達男さん (81歳)

沖縄県立沖縄盲学校にて、長年にわたり三線指導に携わり、その功績が顕著であったことから玉城さんが文部科学大臣より表彰されました。



令和2年度 緑化コンクール
 緑化功労者の部 **表彰**
 よなみね せいえい
與那嶺 正榮さん (79歳)

平成29年より字宮城「はごろもの里 ドリームガーデン」の緑化活動に貢献し、その功績が顕著であったことから與那嶺さんが緑化功労者として表彰されました。

三線がつなぐコミュニティー

親が趣味で三線をやっていたため、幼い頃から三線の音色に慣れ親しんでいたという玉城さん。「就職先の先輩と一緒に三線教室へ行ったのがキッカケで三線の魅力にどっぷりかかりました。習い始めたのは38歳頃で、始めは弾きながら歌うのが大変だったけど、慣れてきたら、ここをどう唄ってみようか自分の味を出せるのが三線の魅力ですね。」と教えてくれました。

本人自身、弱視でありながらも盲学校で三線指導を20年以上行っている玉城さんは、生徒たちの変化が分かることが指導の魅力だと語ってくれました。「生徒たちが最初はあまりノってこなくても、曲を覚えてくるうちに弾いている音のリズムが変わってきて、気持ちがノってるな〜と伝わってくるのが指導をしていてとても楽しいですね。昔の卒業生が今でも三線を続け、地域のコミュニティー活動に参加していると知って、短い時間だったけど指導に関われたこと、三線を忘れないでいてくれたことが凄く嬉しかったですね。私自身、自分にできるだけのことを続けてきただけですが、文部科学大臣表彰という形で評価してもらえたことは、とても嬉しいです。これからは自分が楽しめるまでの間は、三線の指導を続けてきたいです。」と笑顔で教えてくれました。



三線クラブで指導をする玉城さん

現在、部員4人の三線クラブでは週1回1時間の練習を玉城さん指導のもと行っています。部員は、盲学校100周年記念の祝賀会幕開けで演奏し、素敵な三線の音色が会に花を添えていたそうです。現在は新曲を練習中。これからの活躍が楽しみです。

はごろもの里 ドリームガーデン

道路整備により空き地となった場所を宮城区自治会管理の花壇として有効活用し、地域の景観をより良くしようとの思いからスタートしたのが始まりです。平成28年に宮城区自治会にて名称を募集し「はごろもの里 ドリームガーデン」と名付けられました。なんと名付けの親は、現在の宮城区長 たまきまさふみ 玉城雅史さん。区長へ名前の由来を聞くと、宮城に伝わる「はごろも伝説」と花が広がる場所をイメージして付けた名前だと教えてくれました。

現在、はごろもの里ドリームガーデンには400株のベゴニアが植えられています。與那嶺さんは、1日2時間の手入れを毎日かさねて行っており、満開のベゴニアが地域の子どもからお年寄りの心を癒やしてくれます。「手入れ中に信号待ちの運転手から、綺麗だね！と声をかけてもらえることも多く、とてもやりがいのある仕事だよ。毎年植えるベゴニアの色を変えていて、今年は全部ピンクにしてみたよ。」と與那嶺さんは笑顔で教えてくれました。残念ながら現在は、橋の改築により一時的に花が撤去されています。修理が終わった後の12月頃に、はごろもの里ドリームガーデンが復活予定です。



ベゴニアの説明をする與那嶺さん

毎年きれいな花でいっぱいのはごろもの里ドリームガーデンの見頃は3月です。皆さんぜひ遊びに行ってくださいね。



赤嶺町長